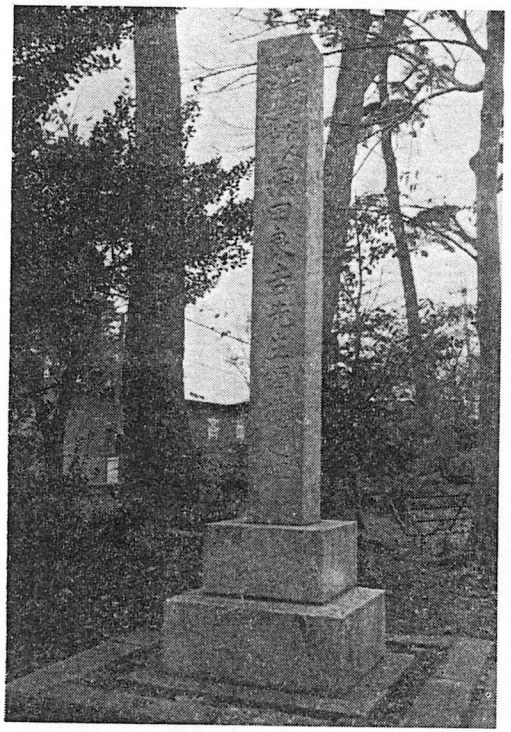
合せて千葉寺の境内に建てられた。

私心を忘れて、盲教育の為に奔走した飛田の功績は、筆者の筆の及ばざるところであるが、千葉盲学校の続くかぎり語りつがれるであろう。伝承こそが、彼への感謝にかえられるべきものであろう。



飛田良吉の頌徳碑

千葉県立盲学校『六十年の歩み』から

ところで、全国的な訓盲院設立の波は、千葉県下においては、どういう現われ方をしたであろうか。

成田清聚学院　成田山の門前町として発展した成田町には、明治末年頃、常時五〇から六〇名の鍼按業者がいたようである。

千葉訓盲院の項でみたと同様、成田においてもそれらの業者が組合をつくり、資質の進歩、向上を図る為に、明治三十九年十一月七日、成田鍼治按摩術講習会を発足させた。これが成田清聚学院の前身である。この研究会では、高川直三郎、関川安治郎、山田平治郎の三医師、成田図書館主任、高津親義の四氏が、解剖、生理、病理学の初歩、修身講話、国史、鍼灸按摩術の起源、沿革、俳句などを講じた。しかしこの会は、毎月第一、第三日曜日の二回のみで、未だ学校組織には、程遠いものであった。

しかしながら、明治四十四年八月の内務省令に呼応して、同年十二月、私立学校として再発足するため、設立認可願を県に提出し、四十五年一月十六日付で、正式に認可された。一月三十一日、生徒五六名、高津親義院長の成田清聚学院は発足した。

校舎は、成田山感化院の一画を以って出発したのである。

学校の課程は、本科、専科、研究科の三コースが置かれた。

①本科は五年として、最も完全なる盲人教育の主義を執り

②専科は二年とし、満二十五年以上にして、本科を履習し能はざる者に課し

③研究科は三年とし、本科、専科の卒業生及現業者の為に之を置けり、（私立成田清聚学院概覧）

教科内容は左表のとおりである。

一、本課科程表（時数ハ一週間ヲ通算ス）

学科＼学年	予科		一年		二年		三年		四年	
	時数	科	時数	科	時数	科	時数	科	時数	科
修身	二	近易ナル行儀作法	二	道徳ノ要旨	二	同上	二	同上	二	同上
医学	六	解剖生理ノ初歩	六	解剖消毒法	六	生理	六	病理総論	六	病理各論
鍼治			四	鍼ノ取扱、経穴、名称、位置	四	同上 刺方	三	実習	五	同上
灸点									一	灸点
按摩	四	按摩方式各部按摩術	三	揉方	三	按摩	四	マッサージ	五	学同上
国語	九	点字、発音、読方綴方、	三	読本作文	二	同上	二	同上		
算数			一	加減	一	乗除	一	四則		
地理			一	日本地理	一	同上	一	同上		
歴史	・		一	日本歴史	一	同上	一	同上		
理科					一	物理化学大意	一	同上	一	同上
体操	二	体操	二	同上	二	同上	二	同上	二	同上
研究			二	研究科聴講	二	同上	二	同上	二	同上
計	二三		二五		二五		二五		二五	

二、専科課程表（時数ハ一週間ヲ通算ス）

学科＼学年	第一年		第二年		第三年	
	時数	科	時数	科	時数	科
修身	二	道徳ノ要旨	二	同上	二	同上
医学	九	解剖生理一班	九	病理消毒一班	九	病理一班
按摩	十	按摩方式、各部按摩術	九	揉方、按腹、マッサージ	九	揉方、按腹、マッサージ
点字	三	点字練習	三	同上	三	同上
計	二三		二三		二三	

三、研究科課程（時数ハ一学年ヲ通算ス）

学科＼学年	第一年		第二年		第三年	
	時数	科	時数	科	時数	科
修身	二二	修身講話	二二	同上	二二	同上
医学	二二	解剖学	二二	生理学	二二	病理学
歴史	二二	日本歴史	二二	同上	二二	医学史
文芸	二二	俳句作文	二二	同上	二二	同上
計	八八		八八		八八	

なお、学院規則によると、授業時間は、本科においては、午前九時から午後二時までとするが、第二、第四月曜は正午までとし、研究科は、第二、第四月曜の正午から四時までとした。

このように、私立盲学校として発展していったのであるが、大正十二年八月の「盲学校及聾唖学校令」により学則を改定し、さらに充実、発展していった。この改組時の学則によると、従前の本科、専科、研究科に代わり、初等部、中等部、鍼按科及び別科が置かれている。

その教科内容は左表のとおりである。

初等部課程表

学年／学科目	第一学年	毎週教授時数	第二学年	毎週教授時数	第三学年	毎週教授時数	第四学年	毎週教授時数	第五学年	毎週教授時数	第六学年	毎週教授時数
修身	道徳ノ要旨 作法	一	同 上	一	同 上	一	同 上	一	同 上	一	同 上 国民要項	一
国語	発音話方点字盤点筆定規ノ使用法 日本訓盲点字単句単文ノ読方書方綴方	七	近易ナル普通文ノ読方書方綴	八	同 上	一〇	同 上	一〇	同上片仮名名字ノ読方書方	九	同 上 同 上	九
算術	百以下ノ数ノ唱ヘ方書方二十以下ノ数ノ範囲ニ於ケル加減乘除	四	千以下ノ数ノ唱ヘ方書方百以下ノ数ノ範囲内ニ於ケル加減乘除珠算	五	通常ノ加減乘除（珠算）	五	通常ノ加減乗除及小数ノ呼ビ方及簡易ナル加減乗除（珠算）	五	整数小数諸等数（珠算）	五	分数歩合数（珠算）	五
国史									日本国史ノ大要	二	同上	二
地理									日本地理ノ大要	二	同上 外国地理大要	二
理科	直観	二	同 上	二	同 上	二	植物及動物自然物鉱物ノ現象通常ノ現象化学上ノ物理	二	同 上	二	人体生理ノ初歩	二
体操	遊戯、体操	三	同 上	三	同 上	三	同 上	三	同 上	三	同 上	三
唱歌	単音、唱歌	二	同 上	二	同 上	二	同 上	二	同 上	二	同 上	二
手工及手芸及裁縫	簡易ナル細工手芸裁縫	一	同 上	一	同 上	一	同 上	一	同 上	一	同 上	一
按摩									解剖生理ノ大要	一	同 上	一
按摩実習									按摩実習	一	同 上	二
計		二〇		二二		二四		二四		二九		三〇

以上のように、学院そのものは発展していったのではあるが、これだけの整備された学校を維持するためには、多大の資金を要したものと思われる。

成田清聚学院においては、その資金を、

①成田山新勝寺からの補助金、年二〇〇円内外

②成田町より、年六〇円

③成田盲人援護会を組織し、会員より会費を徴収

④職員有志から、年六〇円づつの寄付申し出

この四方法により充足させた。

そこで問題になるのは、③の成田盲人援護会であるが、これは、院長及び三講師が発起人となり、鍼按業組合から、四人の募集員を選び、町内有志宅を訪問して、会員をつのったものである。

会員からは、毎月十銭の会費を徴収したが、その期間は、大正二年四月から大正七年三月までの満五年間とした。この会費が、学院経営に多大の貢献をした。

会員募集の過程において、歯科医萩原村次氏の学院生に対する歯科治療の好意、山崎理髪店の、理髪に関する好意などは、心あたたまる話として残されている。

なお、援護会会長には、成田山執事の、池田僧正が、推されて就任している。

このようにして、各方面の助力、尽力により、千葉県盲教育史に大きな一ページを画した。成田清聚学院も、千葉盲学校の県立化、戦争などの波をかぶり、昭和二十七年三月閉鎖された。

木更津訓盲院　明治四十年九月、大野三五郎、鈴木敬信（音訳）両氏により、町内の有志、露崎林平（音訳）の後援をうけ、木更津訓盲院は、発足した。校舎は、後援者、露崎の所有する、成就寺境内の借家であった。（今の富士見町一の一三）

最初、私設の学校として発足したが、明治四十三年、皇太子（後の大正天皇）の木更津訪問を機に、町に移管し、町立となった、初代院長は、当時の町長、香々見儀助氏であった。（以後、歴代の町長が院長に就任）

町立にはなったものの、県外の盲学校に行くもの、千葉訓盲院へ就学するものが多く、最盛期においても、生徒数は、全校で五人位だったという。

創立者の、大野三五郎は、法律専門学校に在学中、視力障害に陥り、学校中退後、灸師の資格を得たが、開業はしていなかった。訓盲院では、点字、生理、解剖などの理論科目を担当した。

一方、鈴木敬信は、町内の営業者であり、訓盲院では、実技科目を担当した。

教科課程は、当時の尋常小学校と同内容であり、国定教科書を使用し、図工、体育、音楽を除く全教科と、前記の専門教科を教授していた。

専門教科は、大野、鈴木の両氏が、普通教科は、院長が担当した。